

会長挨拶

ご挨拶

日本遺伝看護学会第15回学術大会

大会長 有森 直子

(新潟大学大学院保健学研究科)

この度、皆様のご支援をいただき第15回日本遺伝看護学術大会を平成28年9月24日(土)と25日(日)の2日間にわたって、新潟市にて開催させていただくこととなりました。

遺伝の問題が、すべての医療職にとって、あるいはすべての国民にとって関連する課題と言われ続けてかなりの時間が経過しました。

しかし、国民も医療者もゲノム情報の医療への活用について理解が追い付かないのが現状です。看護職は、その数からしても患者やその家族の最も身近にいる職種であり、国民の遺伝に対する様々な「疑問や思い」を共に考えていくことに適したパートナーといえましょう。

そこで第15回の学術大会では、大会テーマを『遺伝看護の専門性とパートナーシップ』としました。クライアントと遺伝医療にかかわる医療者、看護職間、看護職と他職種、地域や施設間など、様々な状況における「パートナーシップ」を参加者と共に考える機会としたいと思います。特に本年は、「遺伝看護専門看護師」の誕生に期待が寄せられています。遺伝看護専門看護師の誕生が、国民にとって役立つ専門性とは何か、を探究する機会としたいと思います。

2日間のプログラムは、市民と共に出生前検査を学ぶ「市民公開講座」、臨床遺伝学を基礎から学ぶランチョンセミナー、遺伝医療について学ぶ2つの教育講演を企画いたしました。患者会、親の会の皆様との情報交換の機会としての「交流集会」も行います。さらに、研究者や学生の皆様を対象にしたアカデミック特別企画では「ナラティブ分析」と「EBNのステップ」を取り上げました。

地域創生がうたわれている今日、水の都新潟の地で、かつての「堀」や「小路」が水路としてネットワークを広げたように、この学会がきっかけとなることを祈念しております。

9月の新潟は、黄金色に輝くコシヒカリの収穫時期です。コシヒカリ、日本酒、日本海のお魚などもお楽しみいただけます。トキめきの新潟で皆様のお越しをお待ちしております。